資　　料

"新しい国の進歩のための科学に関する国際会議" 概況報告

舘　　稔

A Brief Report on the "International Conference on Science in the Advancement of New States"

Minoru TACHI

Contents

1. Introduction
2. Purpose of the Conference
3. Organization of the Conference
4. Participants in the Conference
5. Topics of Conference
6. Sessions of the Conference
7. Conclusive remark

Appendix 1. Statement of the Working Group on Population, POPULATION : HUMAN RESOURCE AND OBJECTIVE (Preliminary Japanese translatioon)

Appendix 2. THE REHOVOTH DECLARATION 1960 (Preliminary Japanese translation)

The author attended the "International Conference on Science in the Advancement of New States" organized by the Weizmann Institute of Science at the Wix Auditorium of the Weizmann Institute, Rehovoth, Israel, from August 15th to 25th, 1960. In this article he summarizes up the purpose and organization of the Conference, participants in which were divided into two groups, namely, the statesman's group and the scientist's group, and presents a brief outline of lectures given and discussions which followed, particularly from the standpoint of a demographer.

He concludes that this Conference was timely and achieved a great success as an initiating attempt. He believes that the Conference gave a great benefit for New States to start their development programmes and will after all contribute to create "a more harmonious atmosphere of international relations".

The complete Japanese translations (tentative) of "Population : Human Resources and Objective", the statement of the Working Group on Population,and "The Rehovoth Declaration 1960" which were decided at the Conference, were appended.

目　　次

1　序　　2　会議の目的
3　会議の組織　　4　参加者
5　議　題　　6　議　事
7　結　び
附録　1　人口に関する小委員会意見書（全文暫定訳），人口：人的資源とその目標
　　2　1960年Rehovoth宣言（全文暫定訳）

1　序

命によつて，わたくしは，1960年8月13日から同31日まで，イスラエル国に出張した。その目的は，1960年8月15日から同26日まで，イスラエル国レホヴオツト市，Rehovoth，ヴアイツマン科学研究所，The Weizmann Institute of Science において開催の同研究所主催，イスラエル政府後援の"新しい国の進歩のための科学に関する国際会議，International Conference on Science in the Advan[illegible]ent of New States" に出席することであつた。以下，その概況を報告して参考とする。ただ[illegible]議におけるペイパーその他配布資料は多大の量に上り，郵送するを余儀なくされたが，まだ[illegible]していないので，この稿は専らわたくしのノートによつた。そのため詳細を尽し得ず，また誤りなきを期し難いが，資料到着の上，適当な機会に追加補足訂正を行ないたいと思う。

2　会議の目的

近来，アジアおよびアフリカにおいて幾多の国々が新しく独立したが，これ等の新しい国々が今後発展するためには，急速に発達した科学・技術を応用することが根本的に必要である。しかし，古くから科学の発達した国々の科学者・技術者は，これ等の新しい国々に対して自ら発達せしめた科学・技術やその応用の経験を教え，新しい国々の発達を援けなければならない。これ等の新しい国々の順調な発展こそ国際関係を調整し，世界平和を保持する真の基礎である。発達した国々が新しい国々に進歩した科学・技術を教えることは，決して慈善であつてはならないので，これこそ発達した国々の国際的義務である。ここにかんがみ，発達した国々の科学・技術者と新しい国々の指導的立場にある人々とが一堂に会し，発達した国々の科学・技術者は新しく進歩した科学・技術の現状を説明し，その経験を物語り，これに対して新しい国々はその要望を吐露する機会を作ることがこの会議の目的であつた。

3　会議の組織

会議はイスラエル国 Rehovoth 市にある The Weizmann Institute of Science[1] の主催であつて，同研究所総裁，イスラエル国文部大臣，Mr. Abba Eban によつて召集された。イスラエル国政府は政府を挙げて積極的にこれを援助した。さらにイスラエル国内では，Jewish Agency for

1)　次の文献によく要約紹介されている．
小林正之訳：ノーマン・バントウイッチ著，再建のイスラエル—現代ユダヤ人国家の鼓動（Norman Bentwich : Israel, London 1952，および著者が日本版のために寄せた論稿の良訳），再版，1960，pp. 144, 198, 314.

Israel および労働総同盟, "Histadruth",[2] General Confederation of Labour が協力し, 国外および国際機関としては, ヨーロッパ核エネルギー委員会 EURATOM, ジュネーヴ;国際核エネルギー機関, ウイン;National Science Foundation, U S, ワシントン;アジア文化財団, ニュー・ヨーク;ユネスコ, パリ;FAO, ローマおよび American Committee for the Weizmann Institute of Science, ニュー・ヨークである。

The Weizmann Instituteに組織委員会が設けられ, 同研究所総裁 Mr. Abba Eban を委員長とし, 同研究所理事長 Mr. Meyer W. Weisgal, 同研究所科学委員会議長 Prof. Gerhard M. J. Schmidt, 同研究所副理事長 Mr. Julian L. Meltzer, 同研究所事務局 Mrs. Margalit Sela および同事務局長 Dr. Amos Manor をもつて組織された。

その下に, 科学計画委員会が設けられ, Mr. Abba Eban を委員長とし, Weizmann 研究所実験生物学部長 Prof. Isaac Berenblum, 同アイソトープ研究部長 Prof. Israel Dostrovsky, 上掲 Prof. G. M. J. Schmidt, 同核物理学部長 Prof. Amos de Shalit および同実験生物学部 Prof. M. C. Shelesnyakをもつて構成された。

さらに, 科学小委員会, 弘報小委員会, 財政小委員会, 接待委員会等の小委員会が設けられ, 約90名の知名の士が加わつた。

この会議の事務総長は Dr. Amos Manor がこれを勤め, rapporteur は総べてのセッションを通じてイギリスのMr. Ritchie Calder がこれに当たつた。

4 参加者

参加者は約40カ国から約130名の多数に上つた。参加者はこれを2種のグループスに分けることができる。その一つはアジアおよびアフリカの新しい国々の政治家グループ, statesman group であり, 今一つは科学者のグループ scientist group であつた。

(1) 政治家グループのおもな人々は次のごとくである。

(A) アジア

Mr. P. B. Koirala, ネパール国総理大臣
The Hon. Yong Nyuk Lin, シンガポール文部大臣
Lt. Gen. Phya Salwidhanniedes, タイ国学術会議議長
Mr. Losenco Teves, フイリピン国国会議員

(B) アフリカ

Mr. Fulbert Youlou, コンゴ共和国大統領
Mr. Prospere Gandzion, コンゴ共和国文部大臣
Mr. Robert Maurage, コンゴ共和国大統領官房長官
Mr. François Silaut, コンゴ Infants' Welfare Institution, 総裁
The Hon. Cheif J. A. O. Odebiyi, 西ナイジエリア大蔵大臣
The Hon. Cheif. A. O. Edyi, 西ナイジエリア通商産業大臣
The Hon. Dr. S. E. Imoke, 東ナイジエリア大蔵大臣
Mr. Alcide Kacou, 象牙海岸文部大臣

---

2) 小林正之訳:上掲書, pp. 126, 128, 161, 173 fg.

Hon. Dr. J. G. Kiano, ケニア通商産業大臣
Hon. R. G. Ngala, ケニア労働・社会保障・成人教育大臣
Mr. Gabriel Lisette, チャド国副総理大臣
The Hon, C. B. Rogers Wright, シエラ・レオネ住宅大臣
Mr. Olu Wright, シエラ・レオネ住宅省次官
Mr. Dennis Pearl, シエラ・レオネ総理府建設長官
Rov. S. B. Caulker, シエラ・レオネ Furah Bay 大学副総長
Mr. Samba Cor, マリー連邦セネガル銀行頭取
Dr. Johnston Ipam Gabriel, トーゴ文部次官
Mr. J. O. Ibeziaka, 東ナイジエリア大蔵参事官
Prof. Eyo Ita, 東ナイジエリア West Afican Pesple's Institute, Kalabar 総裁
Mr. S. O. Quansah, ガーナ国学術会議副会長
Prof. Rocheforte L. Weeks, ライベリア国モンローヴィア大学総長

なお，スーダン，ガーナ，タンガニカ，西ナイジエリア等から科学者を参加せしめた。

（2） 科学者グループ

ソ連圏以外のほとんど総べての発達した国々から多数の科学者が集まつたが，自然科学者が圧倒的に多数であつた。そのうち，2名のノーベル賞受賞の原子物理学者が参加したことが注目をひいた。そのうち1名は，1948年ノーベル賞受賞のロンドン大学，Imperial College of Science and Technology の物理学教授，Prof. Patrick Maynard Stuart Blackett (1897—) であり，今1人は，1951年ノーベル賞受賞のイギリス，ケムブリツジ Churchill College の Master-Designate, Sir John Cockcroft (1897—) であつた。

社会科学者は一般に少数であつたが，ことに純粋の demographer は，最初はわたくし1人であり，実験生物学の見地から demography に通暁する Weizmann 研究所の Prof. Shelesnyak を数えるに過ぎなかつた。会議の途中から US の著名な Prof. Frank Lorimer とイランからテヘラン大学の demographer, Prof. Dj. Behnam が参加し，ヘブライ大学教授 Prof. H. V. Muhsam が非公式に参加したに過ぎなかつた。

5 議　題

取り上げられた議題の主要なものは次の八つであつた。

1） 新しい国々の諸問題
2） 新しい国々の経済的・社会的諸問題
3） エネルギー資源
4） 医療および保健
5） 食料，栄養および優生
6） 科学と教育
7） 水と農業
8） 社会科学

6 議　事

以下，日程にしたがつてこの会議の議事の概況を略述しよう。

1） 1960年8月15日（月曜日），午後5：00—6：30，開会式，Rehovoth 市 Memorial Plaza において。

上記の Weizmann 研究所理事長 Mr. Meyer W. Weisgal が議長となり，同研究所総裁 Mr. Abba Eban の会議の趣旨目的の説明を中心とする挨拶に続いて，イスラエル国総理大臣 The Hon. David Ben-Gurion は新しい国々に対する科学振興の援助を行なうことは進歩した国々の責務であり，新しい国々が進歩した科学を適用することによつて発展することが世界平和の基礎であることを強調した挨拶があつた。これについで，Rehovoth 市長 Mr. Itzkar Katz，ヘブライ大学[3] 総長 Prof. B. Mazar，ハイファ市にある Israel Institute of Technology[4] 総長に代わつて Prof. Rosen, Israel Council for Research and Development の Prof. Smimsmoni の祝辞があり，参加者の政治家グループとしては，コンゴ共和国乳児福祉研究所長 Mr. François Silaut，ネパール国総理大臣 Mr. P. B. Koirala およびチャド国副総理大臣 Mr. Gabriel Lisette の挨拶があつた。

以下，総べて会場は Weizmann 研究所，Wix Auditorium とされた。

2) 1960年8月15日（月曜日），午後8：00—9：30

議　題：新しい国々の諸問題

議　長：Mr. Meyer W. Weisgal, Weizmann 研究所理事長

講　演：Dr. W. A. Lewis，西インド大学総長，University College of the West Indies, Jamaica："新しい国々の諸問題"

講演は，今回の会議全体としての問題提起で，新しい国々は政治的には独立したが，自らの手でその発展の基礎を作り，発展を実現することの難事業なることを指摘し，科学技術の振興の必要と経済計画の必要を強調した。

3) 1960年8月16日（火曜日），午前9：45—正午

議　題：新しい科学

議　長：Mr. Abba Eban

講　演：(A) Sir John Cockcroft：物理学の今日の世界に対する衝激

(B) Prof. P. M. S. Blackett：新しい科学か古い技術か

2人のノーベル賞受賞者の講演であつて，物理学，特に原子物理学の最近における発達の比較的平易な解説であつた。

4) 1960年8月16日（火曜日），午後1：45—5：50

議　題：新しい国々の経済的・社会的問題(1)

議　長：Dr. W. A. Lewis

講　演：(A) Yong Nyuk Lin，シンガポール文部大臣：新しい国々の経済的・社会的諸問題

(B) Prof. Rocheforte L. Weeks，ライベリア大学総長，モンローヴイア：ライベリアの社会的・経済的および教育問題

(C) Dr. Celsa Furtado, Coordinator of Development Programmes in North-East Brazil：低開発国における地域的不均衡——ブラジルの場合

(D) Mr. G. Lisette，チャド共和国副総理大臣：アフリカ諸国の経済的・社会的諸問題

(E) The Hon. P. B. Koirala，ネパール国総理大臣：ネパール国の諸問題

講演は，アジアおよびアフリカの新しい国々の政治家グループによるものであつて，多大の人気

3) 小林正之訳：上掲書，pp. 196 fg.

4) 小林正之訳：上掲書，pp. 195, 314.

を集めた。いずれの講演においても科学・技術の導入の必要が強調されたが，資本蓄積の不足が強く訴えられた。人口についてはほとんど総べての講演がこれに関説したことは幸いであるが，人口に関する基礎資料の不足と人口分析の不備がおおい難い事実であつた。ことにアフリカの新しい国々では人口が少ないこと，労働力不足，“過少人口”等が問題として提起されたが，その半面，人口増加率がほぼ年率2％であることが指摘され注目をひいた。

5) 1960年8月17日（水曜日），午前9：15—午後12：30

議　題：エネルギー(1)

議　長：Sir John Cockcroft および Prof. P. M. S. Blackett

講　演：(A) 新しいエネルギー資源

(a) Dr. Jules M. Gueron, EURATOM：核エネルギーについて

(b) Dr. Alvin M. Weinberg, Director, Oak Ridge National Laboratory, Tennessee, USA.：Breeder reactor の使用による energy autarky 達成の可能性

(c) Dr. Henry Tabor, イスラエル国立物理研究所：太陽熱エネルギーの研究と新しい国々

(B) Mr. J. A. Jukes, UK：新しい国々における核エネルギーの経済的可能性

(C) Prof. Aharon Katzir, イスラエル, Weizmann Institute：科学者と第2産業革命

6) 1960年8月17日（水曜日），午後2：30—5：00

議　題：新しい国々の経済的・社会的問題 (2)——経済発展に対する科学利用の中近東諸国における経験

議　長：Dr. W. A. Lewis

講　演：(A) Prof. K. Alexopoulos, ギリシヤ，アテナ大学物理学部教授：ギリシヤにおける経験

(B) Prof. B. Milosavljevitch, ユーゴースラヴイア，ベオグラード大学，農学部教授：ユーゴースラヴイアにおける経験

講演につづいて討論に際し，ケニアの通商産業大臣が，ケニアにおける “under-employment” の実情を述べ関心をひいた。また，トーゴーの文部次官 Dr. Johnston Ipam Gabriel は新しい国々ではとかく研究者が不生産的とみられる事実を率直に述べて共感をよんだ。

7) 1960年8月18日（木曜日），午前9：15—午後1：00

議　題：エネルギー(2)—8月17日の午前の会合における報告についての質疑応答および意見の発表

議　長：Prof. P. M. S. Blackett

討　議：13名の科学者および政治家が討議に参加し，非常ににぎやかであつた。議論は自から新しいエネルギーの導入についての新しい国々の受入体制の問題に焦点をしぼつていつた。さらにその焦点は二つの問題に分かれた。その一つは新しいエネルギー導入の経済的基盤の問題であり，今一つは技術者ないし熟練労働者の養成の必要に関する問題であつた。

核エネルギーの生産費に関する問題は，新しい国々にとつてばかりではなしに，われわれ一般の関心の的であつた。すなわち，核エネルギーは経済的に廉価なエネルギーたり得るか否かということである。生産費に関する材料も若干説明されたが，少なくとも専門外のわたくしには明確にこれを捕えることはできなかつた。ただ，今後10年間位で経済的エネルギーたり得る可能性がおおよそ明らかにされたかに思われた。

核エネルギーに対しては，太陽熱利用は手のとどき易い問題であつて，イスラエルにおける実験結果は，新しい国々の注目をひいた。

また，風力利用拡大の必要が提案された。

8) 1960年8月18日（木曜日），午後3：00—5：00

議　題：医療と保健（1）

議　長：Prof. Israel Dostrovsky, Weizmann 研究所，アイソトープ部長

演　説：(A) Dr. G. Brock Chisholm, 元 WHO 総長，カナダ：精神衛生と新しい国の発展

(B) 核エネルギーと医療

(a) Dr. Marshall H. Brucer, Oak Ridge 核研究所，Tennessee, U S.：医療におけるラデイオ・アイソトープ

(b) Dr. Henri Jammet, フランス核エネルギー委員会委員：放射能の健康に及ぼす危険

9) 1960年8月19日（金曜日），午前10：00—正午

議　題：医療と保健（2）

議　長：The Hon. Dr. S. E. Imoke, 東ナイジエリア大蔵大臣および Dr. G. Brock Chisholm

講　演：(A) Prof. S. Adler, ヘブライ大学教授：風土病との関連における医学上の調査

(B) Dr. Martti J. Karvonen, フインランド労働者健康研究所，ヘルシンキ：社会保健事業における近代疫学

(C) Dr. J. C. Balaceanu, フランス石油研究所：フランス石油工業の経験に学ぶ

"The geography of hunger, Boston, 1952" の著者として知られるブラジル大学教授，Senor Josué de Castro の"飢餓との闘争における科学・技術"が予定されていたが，教授の欠席で取りやめられ，Dr. Balaceanu の講演が加えられた。

10) 1960年8月19日（金曜日），午後2：00—4：00

議　題：医療と保健に関する討論

議　長：Dr. G. Brock Chisholm

討　論：10氏に上るにぎやかな討論があつた。問題点は，医療におけるアイソトープ発達についての細かな技術上の問題から医師の養成の具体的方策に至るまで多岐に分かれた。人口の見地からは，新しい国々における人口爆発に注意が喚起せられ，人口の量よりも人口の質の向上に注意が促された。

1960年8月20日（土曜日）——イスラエル国では土曜日が休日として厳重に守られるので，この日は休会となる。

11) 1960年8月21日（日曜日），午前9：15—正午

議　題：食料，栄養および優生

議　長：The Hon. Chief J. A. D. Odebiyi, 西ナイジエリア大蔵大臣および Dr. Warren O. Nelson, Population Council, Inc., U S.

講　演：(A) 舘　稔：人口傾向と経済の発展：日本の経験

(B) Prof. M. C. Shelesnyak, Weizmann 研究所実験生物学部教授：人口問題についての生物学的接近

(C) 食料化学のポテンシヤル

(a) 渡辺　篤；東京大学応用微生物研究所：藻類の食料としての利用

(b) Mr. M. Willcox Perrin, イギリス Welcome Foundation 会長，ロンドン：現在および将来の人口との関連においてみたる食料の生産

(D) Prof. L. D. Smulin, マサチユセツツ技術研究所：非軍事的目的に対する大規模工学の適用

館は，明治維新以来今日に至るまでの日本における人口変動と経済発展との関係の概要を述べ，日本における人口問題に関する調査研究機関（厚生省人口問題研究所，国立公衆衛生院，総理府統計局，厚生省大臣官房統計調査部，厚生省人口問題審議会，財団法人人口問題研究会，毎日新聞社人口問題調査会等々）ならびにその活動の概況を説明し，日本の経験とこの会議の今日に至るまでの討論に現われたところにかえりみ，(A)経済発展の要因として，ただに人口の大きさのみならず，人口増加率と経済成長率との関係に重点がおかるべきこと，ことに“経済的離陸”についてはそうであること，(B)人口に関する関心と正確な理解が経済発展の基礎であること，(C)以上の目的に対して，(a)人口専門家の養成と(b)人口統計材料の整備と(c)専門家による人口分析とその結果の経済計画への利用の必要を強調しておいた。

Prof. M. C. Shelesnyak は，新しい国々における人口爆発に注意を促し，人口の資質向上の必要を強調し，ヴアイタル・バランスの見地から出生力調整の必要を暗示し，そのためには増殖の生理に関する生物学の見地からする基礎的研究の必要を強調した。

渡辺篤教授は，数十枚のスライドを用いて日本における藻類の研究成果を要約して説明されたが，外国においては日本のごとく食料としての藻類利用がほとんどみられないために，多大の注目をひいた。

正午から約1時間30分，本日午前の講演者一同の新聞記者会見が行なわれた。館の講演についての質問は，(a)日本の“経済離陸”に際しての人口の大きさと人口増加率との意義，(b)戦後における人口増加率調整が急速に実現した理由および(c)戦後における急激な人口増加率調整の結果生じる年齢構造の変化が将来の経済発展（“第2産業革命”）に対してもつ意義の3点に集中した。

渡辺篤教授の講演に対しては，外国記者は日本で食品として用いられる藻類をみたこともないので，教授は用意されたアサクサノリ，コンブ等の食品の実物を配布して説明された。記者の中には食してみせよというものあり，渡辺教授と館とアサクサノリやコンブを食して試食をすすめる等珍妙な場面もあつた。

12) 1960年8月21日（日曜日），午後2：15—4：30

議　題：科学と教育

議　長：The Hon-Yong Nyuk Lin, シンガポール文部大臣および Prof. Joseph Kaplan, カリフオルニア大学物理学部教授

講　演：(A) Prof. Jerrold K. Zacharias, マサチユセツツ技術研究所，U S.：物理学における広範な教育計画に学ぶもの

(B) Prof. Mogens Pihl, コペンハーゲン大学物理学部教授：新しい国々に対する科学者の養成

(C) Prof. Rolando U. Garcia, アルゼンテイン，ブエノス・アイレス大学教授：現代科学・技術発展に当面するラテン・アメリカの諸大学

(D) Prof. Gunnar Randers, ノルウエイ核エネルギー研究所長：世論の必要と技術的発展

13) 1960年8月22日（月曜日），午前9：15—午後12：30

議　題：水と農業（1）

議　長：Prof. W. C. Lowdermilk，カリフオルニア大学，U S. および Prof. J. H. de Boer，オランダ中央実験所

講　演：（A）Prof. W. C. Lowdermilk：農業生産に対する科学・技術の利用と土壌および水の基本資源の保存

（B）Mr. Aaron Wiener，イスラエル水利研究所（TAHAL）：乾燥国における水利発展に関する諸問題

（C）Prof. Georges Dumesnil，フランス：海水から塩分除去の方法

（D）Dr. E. C. Bowen，オーストラリア科学産業研究所，シドニー：気候調整——人工降雨の問題

（E）Prof. Louis J. Battan，アリゾナ大学気象学部教授，U S.：乾燥地方における降水量の調整

何分イスラエルが水不足で非常に困難しているために，最も一般傍聴者の関心をひいたセツシヨンで，傍聴席はあふれんばかりであつた。

この日，著名なUSの人口学者 Prof. Frank Lorimer とヘブライ大学教授 Prof. H. V. Muhsam が参会され，この会議における人口の問題の取り扱いについて種々意見の交換を行なつた。

14) 1960年8月22日（月曜日），午後3：00—5：00

議　題：水と農業（2）

議　長：Prof. W. C. Lowdermilk

Prof. J. H. de Boer

演　説：（A）Dr. Frank W. Parker, FAO，技術部次長：低開発国における農業生産増加に対する化学肥料の役割

（B）Prof. Lloyd V. Berkner, US Associated Universities Inc. 会長：天然資源の発見と開発に対する地球物理学および地質化学の応用

なお，この部門においては以下の追加ペイパーの提出があつた。

（A）Mr. D. B. Krimgold, FAO/UN Special Fund：新しい国の発展における水文学と関連知識の役割

（B）Dr. Menachem Lewin，イスラエル繊維・林産物研究所：新しい国の発展における繊維科学と技術

（C）Mr. I. Vilentchuk，イスラエル鉱業研究所：天然水資源に対する主要なる補充としての海水の蒸留

（D）Mr. A. Zarchin，イスラエル：凍結法によつて海水から塩分を除去する方法

（E）Prof. L. Picard，ヘブライ大学教授：イスラエルにおける地下水の探究

15) 1960年8月23日（火曜日），午前10：00—正午

議　題：（A）食料および栄養

（B）水と農業

（C）科学と教育

に関する討論

議　長：Mr. Fulbert Youlou，コンゴ共和統国大領よおび Prof. M. C. Shelesnyak

討　論：20名に上るにぎやかな討論が行なわれたが，人口と関係深い食料および栄養についての討論においては，スウエーデン，ウプサラ大学の Prof. Hugo Oswald は，世界の食料生産について楽観論を述べて注目をひいた。ノルウエイ核エネルギー研究所長，Prof. Gunnar Randers は，低開発国における低賃金労働が国内的および国外的に与える影響について警告した。ヘブライ大学 Prof. Muhsam は，舘の講演について，日本の経済離陸時における人口増加率が低かつたことを強調し，舘の所論を支持し，Prof. F. Lorimer は，ガーナ大学における人口学の講義の経験を述べ，Dr. W. Nelson は，出生力調整の見地から人類増殖生理学の研究の必要を強調し，Prof. Shelesnyak の所論を支持した。こうして，食料と栄養についての討論は，結局，人口の問題に帰着することとなつた。

16）1960年8月23日（火曜日），午後1：30—4：00

午前のセツシヨンと全く同様で，討論が続けられたが，結局，人口の問題，水と農業の問題および科学と教育の問題はいずれも重要問題であるから，それぞれ三つの Working Groups を作つて，Statement の原案を作成し，総会の承認を得ることとなつた。

人口の Working Group は，イラン国テヘラン大学 Prof. Dj. Behnam, Dr. F. Lorimer, Prof. H. V. Muhsam, Mr. M. W. Perrin, Prof. M. C. Shelesnyak, 舘　稔および渡辺篤教授をもつて組織された。

なお，午後の討論における変わり種としてインド国 Mr. Modarpas Mundra は，"Bhoodan movement（総べての農民に対する土地配分運動）" の趣旨を述べその必要を訴えた。

17）1960年8月24日（水曜日），午前9：15—午後12：30

議　題：社会科学

議　長：Mr. Gabriel Lisette, チヤド国副総理大臣 および Prof. Carl Iversen, コペンハーゲン大学総長

演　説：（A）Prof. Edward Shils, シカゴ大学社会学部：社会諸科学

（B）Mr. David Horowitz, イスラエル銀行総裁：新しい国における政治と経済学

（C）Prof. J. H. de Boer, オランダ中央実験所：科学的発展の経済学

（D）国際協力の意義

（a）Dr. Hilliard Roderick, UNESCO 自然科学部次長：科学と各国政府間活動

（b）Prof. Joseph Kaplan, カリフオルニア大学物理学科：国際地球物理学年間について

（c）Dr. Helmut Krauch, ドイツ，ハイデルベルヒ大学：原子研究の分野における国際協力

この会議全体として自然科学に重点がおかれているがごとくみられるとき，Prof. E. Shils が社会諸科学，ことに，新しい国々の発展がもたらす社会構造の変動についての社会学的研究の重要性を力説したことは，社会科学者の間に非常な共感を呼んだ。

また，Mr. D. Horowitz は，新しい国々における新しい科学・技術の導入は投資総額の著しい増加を意味することに注意を促し，人口変動，ことに，人口爆発の事実を重大視し，それが投資，資本形成の妨げとなるおそれが多分にあることについて警告を発し注目をひいた。

18）1960年8月24日（水曜日），午後3：00—5：00

午前のセツシヨンそのままの継続で，次の講演が行なわれた。

（A）Prof. Ernst D. Bergmann, イスラエル原子エネルギー委員会長：新しい国における発

展計画と調査

（B）Prof. Carl Iversen：発展しつつある国におけるインフレイションの問題

なお，このセツションに対しては次の追加ペイパーの提出があつた。

（A）Sir Ben Lockspeiser，ヨーロッパ核研究機関会長：技術の重要性

（B）Mr. Paul G. Hoffman，UN Special Fund, Managing Director：新しい国の発展における国連の役割

（C）Prof. Jacques Freymond，スイス国ジュネイヴ大学教授：技術発展の国際関係に対して与える衝激

（D）イスラエル経営センター：新しい国々における経営に関する科学の用途

（E）Prof. Raphael Moissis and others，U S，マサチユセツツ技術研究所：技術的および経済的発展計画についての科学的接近

19）1960年8月25日（木曜日），午前9：15—午後12：30

議　題：総　　括

議　長：Mr. Abba Eban

演　説：テヘラン大学教授 Prof. Dj. Behnam，がイランにおける人口状態を演説したほか，おもに新しい国の側から一般問題について追加演説が行なわれた。これ等の演説のうち，シンガポールの文部大臣が，シンガポールは人口激増に当面して，強力な家族計画普及政策を発足した。しかし，家族計画普及の基礎は教育にあると強調して注目をひいた。

なお，Weizmann 研究所の紹介，ヘブライ大学の紹介をはじめイスラエル国のおもな調査研究機関の紹介が行なわれ，Weizmann 研究所については，特に科学者の養成計画が説明された。

20）1960年8月25日（木曜日），午後2：30—5：30

午前のセツションがそのまま継続されたが，午後のこのセツションは主として決議に当てられた。

上述の人口の Working Group は，8月24日午後2：00—3：00 および8月25日午前11：00—11：20に会合し，Prof. Shelesnyak が取りまとめた Statement の原案について審議修正し，8月25日午後のこのセツションにおいて満場一致承認を得た。その全文の暫定訳を本稿の附録1として掲げた。

つづいて，水と農業の Working Group の作成した Statement の原案および科学と教育のそれは，いずれも満場一致の承認を得た。

最後に，この会議全体の討議を通じてまとめられた“1960年 Rehovoth 宣言”の原案について Mr. Abba Eban が説明し，満場一致これを決議して10日にわたる強行軍の会議の幕を閉じた。Rehovoth 宣言については，全文の暫定訳を本稿附録2として掲げておいた。

7　結　　び

上述のごとく，会議は，わたくしの知る限り，これまでに類例のない異色の会議であつた。ここにわたくしの二三の印象を述べて結びとしよう。

世界の40カ国に上る多数の国々から，130名に上る参加者を集め得たことは，それだけですでに会議の成功を物語るものといえよう。ことに，アジアおよびアフリカの新しい国々の指導的立場にある政治家が，上記のごとく多数出席したことは確かに成功であつた。このことは，この会議の趣旨目的について，すなわち，この会議の企画の成功であることはいうまでもないが，半面，イスラ

エル外交の成功を意味しているとみられる。

会議における講演は，一般に，概説的で平易であつたが，よく高い科学的水準を保ち得たことは，結局，すぐれた科学者を集めることに成功したことによつていると思われる。ただ，率直にいつて，会議全体がやや自然科学に偏した感がないではなかつた。ことに，わたくしの立場からは，新しい国々の“経済離陸，economic take-off”について，もう少し専門家のつつこんだ討論がほしかつた。また，Prof. E. Shils が指摘したように，新しい国々は社会構造の一大変動に当面しているのであるから，社会構造の進化に関するさらに深い社会学その他社会科学の討論が望ましかつた。今回は第1回の会議で，総べての論題について概説的意見や討議が多かつたが，次回に希望したいことは，さらに特殊の問題に焦点をしぼつて深く掘り下げられることが必要であるということである。

この会議が，世界の科学者が新しい国々の真実の要求を具体的に理解し，おそらくこれに添うべき努力を開始することになるであろうし，新しい国々の指導者たちが世界の科学者に具体的協力を求める場を供したことは，確かに会議の目的に対して成功であつた。Jerusalem Post 紙の報道によれば，すでに，ある新しい国々との間には，イスラエルから学術調査団を派遣する話し合いができたということであり，また，ある国々からはイスラエルへ留学生を派遣することについて話し合いが進められているということであつて，これ等はいずれも，はやくもこの会議の成果の一端を証明するものであるとみてよいであろう。“Rehovoth 宣言”に明らかにされた通り，今後，この会議は恒久事務局を持つことになり，この事務局のこうしたあつせんの結果は，将来適当な時に予想される第2回の国際会議に報告されることとなろう。

1948年，イスラエル国の独立以来，今や12年を経過して，この国の建設のいわば第1段階がやつと終わり，第2の発展段階に入ろうという時期であつて，こうした時にこの会議がこの国で開かれたことは，イスラエルとしても参加者の側からいつても，きわめて timely であつたということができよう。がんらい資源に乏しく，半砂漠的な赤茶けた土壌，水の絶対的不足，自然の力のきびしいこの国では，人間はあらゆる科学・技術を総動員してたくましい建設の能力を発揮した。この建設を自分の眼でみることを目的とした参加者は，決してわたくしだけではなかつたと思われる。

今回の会議にわたくしが出席する機会をお与え下さつた日本医科大学教授古屋芳雄博士ならびに在東京 Asia Foundation の各位に厚く感謝の意を表する。また，今回の会議に出席して多大のお世話になつた The Weizmann Institute of Science の各位，ことに President and Mrs. Abba Eban, Dr. and Mrs. Amos Manor, Prof. and Mrs. M. C. Shelesnyak, Miss Rinna Dafni の諸氏に，イスラエル政府，ことにイスラエル外務省アジア局長 Mr. Yaacov Shimoni をはじめ，Miss Shulamit Unna, Mr. and Mrs. P. E. Lapide, Mr. Eliahu Tabori 等アジア局の各位，在東京イスラエル公使館，公使 Minister Daniel Lewin，書記官 Mr. E. Tippori ならびに Mr. Naim 両氏，Hebrew University の Prof. H. V. Muhsam, Kiryat Anavim の Dr. Conrad N. Rosenstein 等の各位に深く感謝の意を表する。また，はからずも会場でお目にかかり旧交を温めるとともに有益な discussion を楽しむことができた国際人口学会会長 Prof. Frank Lorimer に感謝しなければならない。日本では厚生省はじめ関係方面のお世話になつたが，ことに外務省国際連合局管理課の各位，現地では，在テラヴィーヴ日本公使館本村善二代理公使夫妻ならびにアタツシエ星野暐氏に厚く感謝の意を表する次第である。

附録 1　人口に関する小委員会意見書（全文暫定訳）

人口：人的資源とその目標

われわれが原則とするところは，自由にして拘束されることなき世界においては，人間は総べてのわれわれの希望の中心であるということと独立の人間は自然の資源たるのみならず人間の自然の目的であるということである。

1)　社会的経済的発展の知的な計画は，人口の量と質とに関する知識と調査を必要とする。アフリカおよびアジアにおいては，過去10年間に，人口調査の実施は偉大な進歩を遂げた。それにもかかわらず，少なからぬ国々において，今なお，出生，死亡および人口移動の人口動態に関する信頼すべき調査を欠いている。完全な人口動態登録制度が実現するに至るまで，人口動態に関する調査は標本地域についての精密調査によつて求めらるべきである。

それぞれの国々における特殊の要求と実情とに関連して，人口統計材料の評価と分析は有能な専門家を必要とする。人口に関する調査研究と人口学者の養成についての国際協力がますます進展することは，これ等の要求に応ずるために重要である。

2)　人口の推移，変動および傾向は，見逃すべからざる問題を提起する。利用し得る資源と新しい機会との関連における人口の分布，および個人の性格，刺激および反応に作用する諸条件との関連における人口の分布等がそれである。人口増加が加速されることは，たとえ現在比較的小さい人口をもつている国々においてさへ，大部分の低開発国においては，一大問題を提起している。医学の応用による死亡率の低下と高い出生力の持続とは，空前の高率における人口増加をもたらしている。人口の急激な増加とその結果としての成年人口に対する少年人口の著しく高い比率は，生産性を高めるために投資さるべき貯蓄の余地を縮少することによつて，少年人口の保健と教育のために費さるべき余地を縮少することによつて，また，その施設と教育者の不足を拡大することによつて，社会的経済的負担を拡大する原因となつている。ある条件の下においては，農業に依存する人口の激増は土地資源の浸食を誘発することもある。現在の人口傾向の諸情勢は社会的経済的目的の達成および計画のために，体系的な調査研究と深甚の考慮とを要求している。

3)　貧困の問題解決への接近において，食料増産，産業発展，保健・教育の増進に関する政策と出生調整による人口増加抑制政策とを同時に考慮することは不合理の感がある。しかし，事実，これ等は何等矛盾するものではなくて，相互に相補うものである。一方の政策の進展は，他方の政策の進展に依存する。しかし，それぞれの国の特殊事情によつて，特殊の政策の間に努力を適正に配分することは異なつてくる。

4)　増殖を規制する既知の方法は，現在では技術的に進歩した国々において健康な教育程度の高い人々の要求に応ずる場合においてのみ相当有効である。しかし，それは貧困な国々における知識のない人々の必要に応じるためには，はなはだ不適当である。このような現状は，当事者の意思にしたがつて不妊を克服するとともに増殖を防止する新しい方法を発見するために，増殖の生理に関する科学的研究の促進を焦眉の急たらしめる。

5)　各国において，人口政策を形成する責務は，他の政策と同様，その国民とその関連機関とにある。かかる政策を形成し，それが国民によつて受け入れられるということは，多くの部分，事実

の明確な描写の存在することに依存する。そして，その目的のために資格ある専門家の必要は緊急の要事である。国際機関と世界の科学界は，知識の進歩と普及および国々がその目的を達成するために援助する責務を分かつものである。この目的達成を援助するために，われわれは，人口学者と生物学者に対する養成センターの新設と既存のものの拡充を提唱する。その養成は，養成を受けた人口学者や生物学者が帰国の上は，この方面における調査研究と養成とを行なうための組織を作り，活動するに足る資格を与えるようにしなければならない。このようなセンターの実際上の詳細とその活動は，進歩した国々の科学者と技術者および低開発国の指導的地位にあるものとの間の協力によつて形成さるべきである。

附録 2　1960年 Rehovoth 宣言（全文暫定訳）

新しい国の進歩のための科学に関する国際会議が，Weizmann 科学研究所総裁の招待によつて，1960年 8 月15日から30日まで，イスラエル国 Rehovoth なる同科学研究所において開催せられた。

この会議には，最近新しく建設された国をはじめ多数の国々から閣僚，政府高官，教育および開発に関する諸機関の指導的地位にある人々，ならびに，全世界における指導的自然科学者，社会科学者および経済人が参加した。国際専門機関の代表者も参加した。

この会議は，この時代の生活に深い影響を与えている二つの過程に注意をむけた。すなわち，それは科学技術の急速な進歩と，主としてアジアおよびアフリカにおける新しい国の出現によつて生じた国際協同社会の構造の変動である。この会議の参加者は，次の事項に関して一般的同意を表明する。

（1）　新しい国々は古く建設された国々と政治的平等を達成した。しかし，経済的，社会的および文化的発達においては，いまだ，平等は存在しない。大多数の新しい国々は，抑圧された生活水準，短命，農業および工業における発展の遅延および天然資源利用の不適正に困難している。この状態を是正し得る科学的思想および技術的熟練は，いまだ新しい国々には適用されるに至つていない。こうして，近代科学の運動は進歩した国々の力と富を不断に増進しているにもかかわらず，発達の遅れた地域においては，その影響は微々たるものである。

（2）　人間性の基礎に立つて，国々の福祉を増進するとともに，国際関係のさらにいつそう調和ある雰囲気を作り出すために，この不均衡を緩和することが緊急の要事である。

（3）　この会議に参加した自然科学者および社会科学者は，科学技術が，農業技術の改善，水利の発達，疾病の予防と健康の増進，栄養に関する技術的改善，資源の発見と評価，資源と人口との相互調整および工業化の促進を通じて，新しい国々の現状を急速に改善する可能性のあることに同意した。そして，新しい国々における科学教育を強化する必要が強調された。

（4）　さらに，たとえば，核エネルギー，太陽熱および人工給水利用の拡大のごとく，研究と応用の多くの分野において，きたるべき10年間における発達が新しい国々の経済状態に積極的な影響を与える可能性のあることが同意された。

（5）　新しい国々の代表は，彼等の国における科学教育を拡充し，彼等の発展問題に関する最良の科学的方法を利用し，科学の進歩した国々における科学的思想と実践に緊密な接触を保つことについての強い希望を表明した。

（6）　科学・技術を新しい国々の問題にさらにいつそう積極的に関連せしめるという見地から，この会議においては，次の方向の考え方と実践が推薦された。

（a） 新しい国々の政府は，科学・技術の促進をその国家政策の主たる対象とし，この目的達成のために適当な資金および機会の準備をすべきこと。

（b） 新しい国々においては，科学的作業者および技術者の集団を育成する見地から，中学以上の教育制度において急速に教育計画がたてられなければならない。

（c） 新しい国々においては，その第1着手とし，明確な優先順位を付して発展計画の基礎として，天然資源と人的資源に関する完全な調査が試みられねばならない。

（d） 新しい国々は，自己の科学的人的資源が適正になるまで，その国の科学的実践を助けるために友好国および国際機関から科学顧問や専門家の助力を得ることが望ましい。

（e） アフリカの国々の代表は，地域的接近の利益を指摘した。すなわち，技術援助および技術教育の計画については，2カ国以上にわたる地域的計画が有利である場合があり得る。

（f） 科学の進歩した国々は，政策として，科学的進歩の遅れている国々に対して，進んで科学上の援助と助言を行なわなければならない。

（g） 科学の進歩した国々における科学研究機関および研究者は，新しい国々の問題と関連する研究および応用の分野にその関心を高める必要がある。

（h） 国際機関，各国政府および民間財団は，新しい国に対する資金援助計画を拡大して実施することが必要である。その場合，技術的知識の伝達および普及，技術者の養成および技術的・科学的設備の増加に適当な留意を必要とする。

（i） この会議において推進された新しい国々の政府および各方面の科学・技術の指導的地位にある人々の接触は，さらに強化拡充され，ここに要約された目的を進展せしめる特別の計画についての共働をも含ましめられなければならない。

（7） 以上の各項において要約された目的と計画とを遂行するため，この会議は，恒久的事務局を設立することを決議する。事務局は Rehovoth 会議の参加者およびその一般の目的に賛同する他の政府および諸機関の間の接触を保持する。また，事務局は，新しい国々および科学的作業者からの要望および意思表示の交換伝達機関としての役割をはたし，効果ある接触を推進する。

事務局の業務は， Rehovoth 会議の参加者中総会において選出された代表者によつて構成される運営委員会によつて遂行される。

事務局運営委員会は，この宣言の第6項において提示された事項についての進展の状態を監査するために，各国政府，科学者および国際機関と協議の後，将来，適当な時期に第2回の会議を召集することを考慮する。

運営委員会は，協同および個別活動およびその計画の進展についての監査結果を，第2回の会議に報告する。

（8） この会議は，その議事録を刊行し，各国政府，科学研究機関および国際機関に頒布することを決議する。

（9） この会議は，この宣言を，国際連合事務総長，専門機関，各国政府，科学的研究および新しい国々の発展の推進に関係ある諸研究機関および民間財団に至急伝達すべきことを決議する。

Rehovoth，1960年8月25日。